

大豆情報 第3号

平成28年8月23日

J A む な か た
北筑前普及指導センター

7月18日の梅雨明け後少雨傾向が続いていますが、大豆の生育は順調で、7月上旬播きの大豆では開花始めを迎えています。今後、7月中下旬播きのほ場でも8月下旬には開花が始まると思われます。

ハスモンヨトウについては、地域のフェロモントラップの誘殺虫数は8月上旬にピークがみられ、盆前から多くのほ場で白変葉を確認しています。今後の発生に注意が必要です。雑草についてはイネ科雑草が残っているほ場が多く見られますので、ただちにポルトフロアブル（10葉期まで）を散布しましょう。

1. 乾燥対策

開花期の干ばつは着莢率の低下、着莢期～莢肥大期にかけては粒の肥大を抑制するので、開花期（8月下旬）以降、可能な限り畦間かん水を行って下さい。

※大雨時以外は、開花期前から本暗渠の栓を閉める。

2. ハスモンヨトウの防除

- 現在、白変葉が目立つほ場では、早急に防除

7月上中旬播種の生育の良いほ場では、白変葉数がa当たり(10m四方)10株を超えるほ場がみられ、現在2～3齢幼虫が分散・食害しています。ただちに下記表を参考に防除を行ってください。

基幹防除		薬剤名	散布量
目安： 現在～ 8月末	粉剤	トレボン粉剤DL	4kg/10a
	液剤	プレバソnfフロアブル5（4,000倍） （カメムシが多い場合のみトレボン乳剤を1000倍で混用）	150ℓ/10a

※トレボン粉剤DLは、若齢幼虫には効果がありますが、防除適期を外すと効果が著しく低下します。

※プレバソnfフロアブル5は、比較的大きな幼虫にも効果があり、残効が長い薬剤です。ただし、散布後に出てくる新しい葉には効果がありません。



白変葉



1 齢幼虫（頭が黒い）